

19) 手術部

1. 組織及び構成員

部 長 奴田原紀久雄（泌尿器科教授）
副部長 萬 知子（麻酔科教授） 多久嶋 克彦（形成外科教授）
師 長 根本 康子
副師長 相馬 真弓

手術部長、副部長、看護師長、看護副師長、手術部を利用する各診療科医師よりなる手術部運営委員会の決定に基づき運営されている。

平成26年4月現在、74名の看護師が所属しており、年々増加する難易度の高い術式、高度医療機器を使用した術式に対応できるよう人員配置が行われている。

2. 特徴

中央手術部、外来手術室、ハイブリッド手術室合わせて21室の手術室が稼動している。外科系診療科の手術、検査および、内科系診療科のバイオプシー、ラジオ波焼却、生検、骨髄採取などを行う施設として付属病院の中心的機能を果たしている。平成27年2月には、ハイブリッド手術室が新設され、循環器内科の不整脈治療が新たに手術室で行われるようになった。平成27年度は中央手術室、外来手術室、ハイブリッド手術室あわせて11,386件の手術が施行された。

3. 活動内容・実績

	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	中央	外来										
消化器・一般外科	1,005	2	1,063	0	996	0	918	2	912	1	886	0
乳腺・呼吸器・甲状腺外科	471	48	466	42	537	45	579	29	579	22	633	32
心臓血管外科	445	0	447	0	428	0	458	0	447	0	446	0
形成外科	1039	508	1,063	486	1,214	548	1,297	542	1,266	558	1,205	640
小児外科	293	0	280	0	252	0	245	0	266	0	261	0
脳神経外科	460	0	445	0	407	0	400	0	335	0	347	0
脳卒中科	27	0	34	0	36	0	39	0	73	0	74	0
整形外科	874	0	894	0	1,010	0	968	2	1,020	0	1,121	0
泌尿器科	735	0	781	0	787	0	900	0	954	0	903	0
眼科	247	2,632	293	2,778	331	2,965	308	3,048	320	2,630	380	2,566
耳鼻咽喉科	551	9	451	4	486	5	490	10	459	4	441	2
産科	460	0	422	0	438	0	399	0	404	0	373	0
婦人科	555	0	553	0	598	0	604	0	649	0	617	0
皮膚科	52	5	54	9	67	1	66	0	72	1	79	1
救急医学	92	0	114	0	138	0	141	0	133	0	105	0
顎口腔科	33	0	31	0	19	0	37	1	37	0	29	0
神経内科	1	1	1	7	1	0	0	4	2	0	3	3
呼吸器・血液内科	6	0	2	0	4	0	4	0	5	0	4	0
消化器内科	165	0	177	0	179	0	157	0	144	0	149	0
小児科	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
精神科	73	0	60	0	31	0	18	0	81	0	47	0
麻酔科	1	0	0	0	1	0	4	0	0	0	7	0
循環器内科	1	0	0	0	6	0	4	0	4	0	32	0
腎臓内科	0	0	2	0	22	0	8	0	0	0	0	0
リウマチ膠原病内科	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	0	0
小計	7,587	3,205	7,633	3,326	7,990	3,565	8045	3,640	8,162	3,216	8,142	3,244
合計	10,549		10,792		10,959		11,555		11,685		11,386	

4. 自己点検と評価

平成25年の日本医療機能評価機構受審を機に、周術期麻酔管理外来を受診する患者数の拡大に取り組んできた。その成果が表れ、麻酔科管理による手術を受けるほぼ全ての患者が受診するようになり問題が顕在化する前に予防策を講じ、安全性の高い麻酔・手術の実施をめざす体制が整った。患者・家族も、麻酔及び、手術を受けるにあたっての注意事項等の説明を入院前に、専門知識のある麻酔医、手術室看護師から受けることができるようになった。

手術部としては、周術期麻酔管理外を担当する看護師の人員確保及び育成という課題はあるが、麻酔科と協力し、看護師が担当すべき術前のオリエンテーションの質向上を目指している。

手術に於いては、平成27年2月にハイブリッド手術室が新設された。これにより、従来の中央手術室のX線透視・撮影システムではX線装置の出力、透視画像等が高度な術式に対応できない状況だったが、ハイブリッド手術室ではX線撮影し、直ちに高画質な3次元画像を作成、観察しながら、体内の目標物を的確に映し出すことが可能となり、以前は中央手術室で行っていた、心臓血管外科のステントグラフト挿入術、血管内手術、形成外科の血管腫摘出術を行うようになった。透視画像の向上は、医師の術操作にも影響するため患者の安全が飛躍的に向上すると期待している。更に、放射線部のみで行っていた循環器内科のアブレーション、デバイス挿入、脳神経外科の血管内手術も新たに受け入れた。ハイブリッド手術室にかかる期待に応えるべく、手術部では、看護師のトレーニングを積極的に行っていかなければならないと考えている。